



営農NEWS



水稲やダイズなど多くの作物に寄生するミナミアオカメムシが、県内で初めて確認されました

病虫害発生予察特殊報第1号（県病虫害防除所 9月28日発表）

県病虫害防除所の調査によると、本県では未発生のミナミアオカメムシの生息が初めて確認されました。ミナミアオカメムシは南方系の害虫で、1950年代に南九州で生息が確認され、その後、西日本を中心に分布が拡大してきました。2000年代には東海地方にも進出し、関東では2010年に千葉県房総地方で生息が確認され、その後、2015年には神奈川県で、2016年には東京都で、2020年に埼玉県で生息が確認され、いずれも特殊報が発表されています。

<ミナミアオカメムシの生態や形態の特徴>

世界各地の熱帯から亜熱帯、温帯地方南部に広く生息する南方系の害虫で、日本では西南暖地から徐々に北上し、温暖化の影響で本県にも進出したと想像されます。

成虫の体長は12~16mmと大型で、外見はアオクサカメムシ（本県ではダイズ等の害虫）によく似ています。成虫で越冬し、国内では3~4世代を経過します。なお、最寒月の平均気温が5℃以下の地域では越冬できないとされています。

<被害の特徴>

成・幼虫とも口針で植物の汁液を吸汁します。寄生範囲は広食性で、水稲、ダイズ、ナスなどの野菜類、ナシなどの果樹類など32科145種と多くの植物を吸汁することが知られています。

現在のところ、県内での被害状況は確認されていませんが、西日本での発生状況からみると、水稲で穂を吸汁し斑点米を生じさせますが、他の斑点米カメムシに比べて体が大きいため、低密度でも被害が大きくなるとされています。ダイズでも他のカメムシと同様に、莢の発生から吸汁被害を受け、落莢や不稔莢、奇形や変色粒を生じます。

<防除対策>

本虫を確認したら、必要に応じて各作物のカメムシ類に登録のある農薬で防除してください。

なお、水稲で防除する場合には、クモヘリカメムシやイネカメムシなど大型カメムシと同様に液剤や粉剤で防除し、出穂前には水田周辺畦畔の除草に努めて下さい。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040